

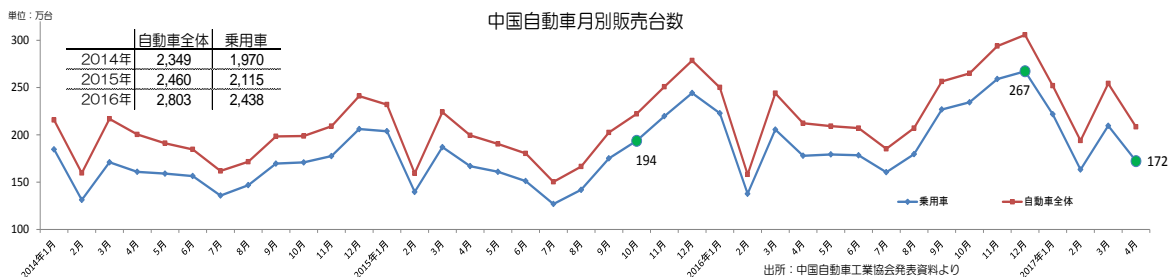
踊り場に差し掛かった中国の自動車市場

◆4月の経済指標、概ね安定も石炭生産が拡大、社会消費品は微減に

中国国家统计局が発表した2017年4月の経済指標は、第1四半期同様概ね安定的に推移している。ただ、1～2月合計が前年同期比1.7%減だった石炭の生産量が3月は前年同月比1.9%増、さらに4月は9.9%増と一転して増加へ転じている。政府は17年1.5億トンの過剰生産能力削減を目標に掲げており、今後の動向が注目される。4月の社会消費品小売総額は前年同月比10.7%増となり、前月比0.2ポイント下がった。個人消費の1割を占めるといわれる自動車の販売台数が、4月に221万台（前年比0.3%増）にとどまったのが影響している。

◆消費を牽引してきた自動車販売に陰りか

中国自動車工業協会（CAAM）によると4月の乗用車の販売台数は前月比17.8%減の172万台（前年同月比3.7%減）となり、1～4月の累計販売台数は767万台（前年同期比2.5%増）となった。



中国政府は販売刺激策として15年10月に16年末までの期限付きで、1600cc以下の小型自動車の取得税を10%から5%に引き下げてきた。17年以降の政策に関しては、ようやく12月15日に7.5%（2.5%の引き上げ）とすることを発表したため、同年後半にはかなりの駆け込み需要が発生した。月別販売状況の推移をみても、小型車の減税が刺激策となり販売を引っ張ってきた。

CAAMは17年の自動車販売台数を約2,940万台と見積もっている。大気汚染や渋滞対策などのため、都市部ではナンバー発給規制など各種規制が実施されており、販売刺激策として政府が打つ手はかなり限られている。消費を引っ張ってきた自動車市場も踊り場に差し掛かっているといえそうだ。 【森山博之】